

全国初の合流式下水道施設の コンセッション事業〈宇部市〉

～官と民の「共創」による持続可能な事業運営～



宇部市 土木建設部 次長 國司 哲也

1 はじめに

宇部市は、山口県西部に位置し、瀬戸内海に面した人口15万7,508人（令和5年度末時点）、面積286.65km²の化学工業を中心とした地方都市です。また、市内東部に位置する「ときわ公園」では「UBE ビエンナーレ（現代日本彫刻展）」が2年に一度開催されており、この展覧会は昭和36年から続いています。令和6年3月には「最も長く続いている野外彫刻展」としてギネス世界記録に認定されました。それに加え、宇部市出身の映画監督庵野秀明氏の代表作「シン・エヴァンゲリオン」の舞台としても知られており、3年連続で「アニメ聖地」に認定されています。

本市の公共下水道事業は、昭和23年度に事業認可を受け、昭和36年5月に西部処理区、昭和37年9月に東部処理区を供用開始しました。旧楠町との合併などを経て、現在は東部、西部、楠、阿知須の4つの処理区（図-1）を有し、事業計画面積4,151haに対して3,513haの整備を終えています。令和5年度末時点での下水道人口普及率は79.4%です。また、合併浄化槽と農業集落排水事業を加えた污水处理人口普及率は93.6%に達し、

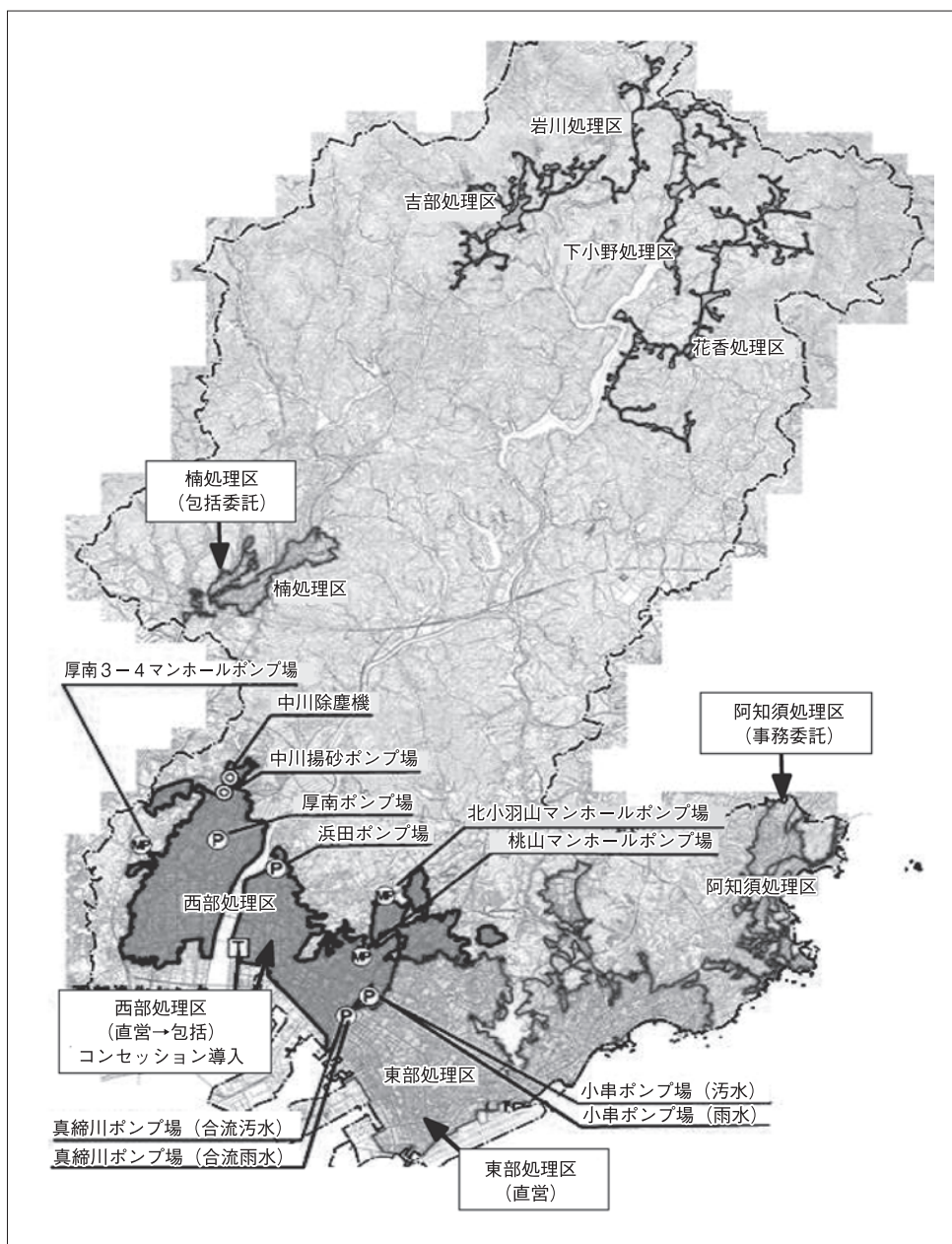
令和8年度末までの計画達成に向けて、着実に整備が進行中です。しかし、公共下水道の供用開始から60年以上が経過し、施設の老朽化や耐震性能不足に伴う改築・更新費の増加、人口減少による下水道使用料収入の減少など、全国的にも共通する「ヒト・モノ・カネ」の課題に直面しています。

本稿では、このような厳しい経営環境のなかで、本市における官民連携手法の導入事例を紹介し、令和8年4月の事業開始を目指す「西部処理区コンセッション事業」について詳述します。

2 官民連携手法の導入

2.1 官民連携手法の導入背景

本市ではこれまで、処理場・ポンプ場、管路施設の維持管理を直営で行ってきました。しかし、維持管理職員は年々減少し、現業職員の退職者不補充などもあり、人員不足が進行しています。これにより、将来的に下水道事業の運営に支障をきたすことが懸念されていました。さらに、施設の老朽化や耐震性能不足に伴う改築・更新費の増加、人口減少による下水道使用料収入の減少など、下水道事業を取り巻く環境は非常に厳しい状況にあ



図ー1 宇都市の公共下水道処理区

ります。

このような状況で、平成27年度に国土交通省の補助金を活用してABC分析を行ったところ、官民連携手法の活用が有効であるという結果が示されました。これを受けて、平成29年度には雨水排除機能を有する合流式ポンプ場再構築事業にDBO

方式を導入しました。その後、平成30年度からは管路施設の維持管理を包括的に民間委託し、令和2年度からは改築・更新工事を含む5ヵ年の包括的民間委託を実施しています。

また、処理場の維持管理については、本市中心部に位置する2つの処理場のうち、西部処理区に